

## 「認知症に対するイメージがガラッと変わりました」

先進的ケア・ネットワーク開発分野 山口真顧人

丹野さんのお話を聞いて、認知症に対するイメージがガラッと変わりました。今まで、認知症の研修に数多く参加してきました。しかし、丹野さんのお話は、今まで聴いてきたものとはまるで違うものでした。

当事者だからこそ、語れることがある。  
当事者だからこそ、言葉に重みがある。  
当事者だからこそ、伝わるものがある。

私がより強くそれを感じたのは、免許の話です。  
丹野さんのおっしゃる通りだと強く感じました。  
認知症高齢者の事故だけが、大々的に取り上げられてニュースになる。  
だから、世間の見方は「認知症に運転をさせるな」になってしまう。  
確かに、リスクを冷静に判断する必要があるし、事故によって失われる命があってはならないこと。  
しかしそれは、「認知症の方」は関係ないのだと私は思います。  
誰が運転していようと、悲惨な事故はあってはならないはずなのに、執拗に「認知症」という  
キーワードだけが取りざたされている現状に疑問を感じます。

私も田舎に住んでいます。  
田舎の高齢者にとって、車の運転とは、とても大きな役割を持っています。  
丹野さんがおっしゃっていた、買い物の特も全くその通りだと感じました。  
認知症だろうと、片麻痺だろうと関係なく、自分の食べるものは自分で選びたい。自分の着るものは自分で選びたい。  
そう思うことは、守られるべき自立性なのだと思います。  
そういった方から安易にその人の生活の一部であるものを奪ってはいけません。  
その方たちにしたら、それが生きていく術なのだから。

そして、丹野さんがお勤めになっている、職場の方も本当に暖かい方々ですね。  
社長さんがおっしゃった「戻ってきなさい。人を大切にしないとこの会社はう

まくいかない。病気になっても戻ってこられるなら誰でも戻れるようにしたい」

この言葉を聞き、衝撃を受けました。「すごい社長さんだな。こんな上司だったらいいな」と思う一方で、丹野さんの人柄を見たような気がしました。

丹野さんは最後に「沢山の人に助けてもらっている。だからこうして笑顔で居られる」と、おっしゃっていました。

飾り気のない丹野さんのこの言葉に目頭が熱くなりました。

この方は、本当に心の優しい方なんだな。と感じました。

丹野さんの周りに、素敵の方が集まるのは、丹野さんの素敵な人柄があるからなのだと確信しました。

そして、トップセールスマンであるという所以も。

お客さんは「会社の」車を買っているのではない。「丹野さんから」、車を買っているのだなと。

丹野さんのように、心の底から人に感謝できる人は、実はそれほど多くないと感じています。

人と人との関わりが希薄になっている今、多くの人が丹野さんのように、人との出会いに感謝することが出来たら、人の暖かさに感謝する気持ちを持つことが出来れば、もっと暖かい世の中になっていくのだと思います。

丹野さん。どうかこれからも、たくさんの人に勇気と笑顔を届けてください。

そして、私も負けません。

丹野さんがそうしているように、「この人に背中を押してもらった」

「この人に勇気をもらえたから今の私がいる」そう思ってもらえる人になれるよう邁進します。

そして、いつか、再び、お逢いできることを心から願っています。